

高知大学 国際連携推進センター

Center for International Collaboration

くじら便り

第3号

2014年5月発行





国際連携と日本の心



高知大学長 脇口 宏

世界中がグローバル化社会における生き残りをかけて、あらゆる産業の分野、教育の分野などで、熾烈な競争を展開しております。わが国の国立大学も例外ではなく、高知大学国際・地域連携センターは本年4月から国際連携推進センターと地域連携推進センターに分離独立し、国際連携・国際貢献と地域連携・社会貢献にこれまで以上に力を入れて活動することになりました。

国際社会は、かつての先進国に陰りが生じ、新勢力が台頭しています。次に台頭してくるのは、政治、経済、文化、科学などについて、これまで一度も国際社会をリードしたことがない国でしょう。それは、歴史を振り返れば明らかです。平家物語の冒頭に、「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり、沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす、おごれる人も久しからず、…」という一節があります。中国には、「一度衰えた国が再度世界(=中華)を支配することはない」という考えがあるようです。物事は順繰りに回り、一国だけが永遠に繁栄を享受することはないということです。わが国のバブル時代もしかりであります。

では、これからグローバル化社会で持続可能な繁栄を手にするにはどうすればよいのでしょうか。一言でいえば、「共存共栄」、「相互扶助」「お互い様」の思想を基本に置くことであると考えます。「ウイン・ウイン」の関係と言われますが、両者が同時に勝利することはありえません。正しくは、「引き分け」あるいは「6:4」程度の勝敗がはっきりしない結末、つまり、主要な部分は片方が手にしても次の部分は他方が手にする、あるいは敗者には勝者からの見返りが十分にある関係ということであり、次の交渉では逆の結果になることを期待させる関係でありましょう。つまり、引き分けか、勝ったり負けたりの世界にならない限り、国際社会が平和で相互協力、あるいは協働を持続させることは困難でありましょう。

留学生の皆さんは、グローバル社会の先端を生き抜こうとする意欲と能力をもって、高知大学に留学してこられました。わが国の文化・哲学で世界に誇るべき思想は数多くあります。例えば、武士道にみられる、「惻隱の情」、「怯懦を忌み嫌う精神」「克己心」、オリンピック誘致で有名になった「おもてなし」、さらには「もったいない」「譲り合い」そして「お互い様」の思想などです。これらの考え方、心情などが、世界標準になれば、国際社会は今以上に平和で、バランスのとれた持続可能な繁栄を達成することへの希望と期待が膨らむことでしょう。

留学生の皆さんには、留学中に学ぶべき高度な専門知識・技術に加えて、高知を第二の故郷とされ、日本の素晴らしい「心」も母国に持ち帰ってくだされば、望外の喜びであります。母国に帰られてからは、それぞれ異なった道を歩まれることになるのですが、貴方自身と高知で学び感じた知識・技術と感性を信じて真っ直ぐに前を見据えて前進して下さることを期待しております。皆さんが理想としている目的地は、きっと皆さんの背中にくっつくほどに近い場所にあると思います。しかし、後ろ向きになることでは、理想の場所に到達することはできません。皆さん自身が自信をもって信じる道を真っ直ぐに進まれば、必ず理想の場所にたどり着くはずですよ。もし、貴方が進む道の前に誰かが立っていた時には、「お互い様」と言って、少しだけ譲り合うことを忘れないでいただきたい。留学生の皆さんが、実り多い学びと体験を修得され、大きな宝物を母国に持ち帰られることを期待しております。

国際連携推進センター誕生！

4月1日、国際・地域連携センターが2つに分かれ、国際連携推進センターが誕生しました。国際連携推進センターは、地域と共に学び研究する「知の拠点」として、高知から世界に発信する大学をめざし、国際的な教育と研究の交流、国際協力プロジェクトの企画と留学生の受け入れ・派遣促進を担当します。

基本方針は「①グローバルな国際連携をめざす」、「②双方向の国際交流を推進する」、「③地球規模の課題に対する国際協力でチャレンジする」の3つ。高知の地域資源を生かした国際連携を推進し、国際連携を教育・研究の場としても活用し、高知大学の教職員・学生と留学生がともに集い、学びあうキャンパスづくりをめざしていきます。

国際連携推進センターは、国際プロジェクト部門と国際連携教育部門で構成され、中国語センターを附置しています。

【国際プロジェクト部門】

高知大学の国際連携分野・地域の重点化を図り、海外とのネットワークを重視した文理融合の研究交流を促進していきます。また、JICAなどと協力し、大学の研究成果を生かした国際協力プロジェクトの実施促進を図ります。

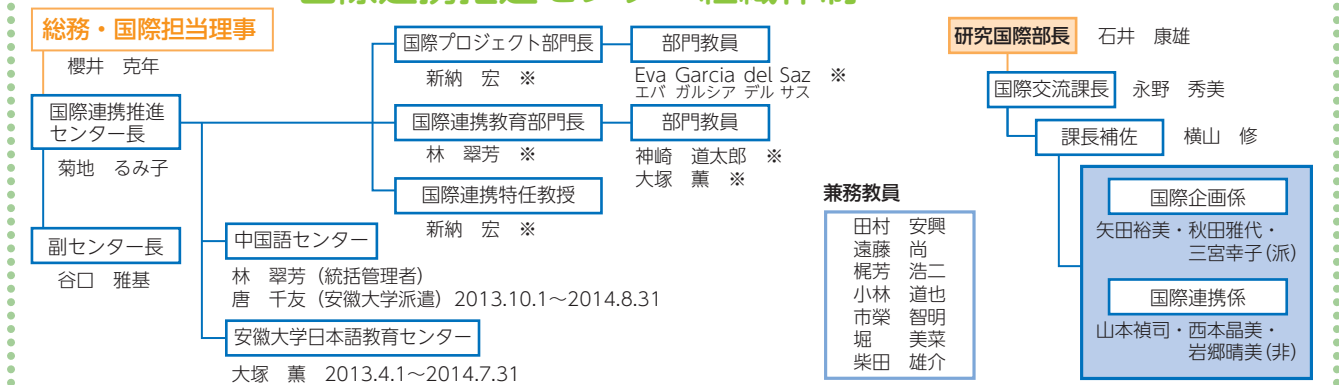
【国際連携教育部門】

教育研究など国際的な連携及び国際的な大学間交流並びに学生交流を推進します。また、日本人学生の海外留学支援、留学生の修学支援を行うとともに、留学生と日本人学生との交流や地域との交流活動を促進し、地域の国際化に寄与します。

【中国語センター】

中国語センターは中国語講座の開講による日本人学生の中国語能力の向上、学生の中国語圏への留学促進の役割を担います。

国際連携推進センター組織体制 (2014.5.1)



※は、センター専任を示す。

地域の課題を海外とつなぐ

国際プロジェクト部門長 国際連携推進センター特任教授・国際連携コーディネーター **新納 宏**



国際協力機構 (JICA) から高知大学に来て1年がたちました。JICA では、主に国別・地域別戦略作り、海外でのプロジェクト作りと実施、市民や自治体の国際協力への参加促進、そして海外からの研修員の受け入れなどを担当してきました。現在の私のテーマは、「地域の課題を海外とつなげること」です。将来それが地域のためにもなると確信し、Win-Win 関係を目指すのが国際協力なのではないか、30年近くこの仕事をしてきてそう強く思うようになりました。

国際プロジェクト部門では、主に次のような仕事をしていくつもりです。① 国際化戦略案の作成：本学での今までの議論の蓄積がありましたので、それを国際連携推進センターの基本方針としました。今後は全学の国際化戦略を作り、少ない資源をどこに集中していくか明確にし、公表していく必要があります。② 学内外の資金による国際連携案件の形成・実施・評価：現在、この夏に向けて自治体等と連携し「防災」と「へき地教育」の分野でJICA国際研修の準備をしています。国際研修の場を本学の教育や研究にも活用できれば、と思っています。このほか、学内の研究成果を生かした海外との連携案件の形成を進めます。③ キャンパスの国際化：大学生協と連携し、5月から食堂でハラール食を導入するなど、キャンパスの国際化を進めていきます。なお、私も教員として、土佐さきがけプログラム国際人材育成コースと農学部国際支援学コースで国際協力や開発途上国に関する授業を行っています。

2008年~2011年の JICA 四国 (高松) 勤務時代に、高知には30回は訪問していますから、勝手知ったる土地。その上食べ物のはうまく、自然は雄大で、人はラテン系ですから、すぐに「高知家」の一員になりました。一方、大学で仕事するのは初めてで、仕事の進め方もわからず、この1年間は試行錯誤でした。やはり何を実現するのも人の助けがないとできません。皆様のご協力とご指導をよろしくお願いします。

留学生のメッセージ

日本語集中コースを受けて

ラリー (CAROLASAN LARRY ALERIA) 予備教育生/フィリピン



これから私は日本語の授業の一部についてお話しします。皆さんに心からの感謝を伝えることができるこの機会を与えていただき、大変うれしく思います。

私はLarryと申します。フィリピンの出身です。私の専門は理科教育 (methods in teaching Science) です。日本は世界で理科教育が進んでいる国のひとつです。

私がはじめて日本語の授業に参加したとき、今までに感じたことがないものを感じ、うまく理解できないかもしれないと思いました。授業が始まる前から、私はすでに疲れていました。はじめの3日間は忘れることができない試練でした。それから、私は平仮名や片仮名を教えてもらい、それらの正しい書き方だけでなく、書体も覚える必要があります。私は覚えるのが苦手ですが、一生懸命にがんばりました。

私はこのコースで、大変すばらしい先生方から日本語を教わっています。毎日、先生方が私たちの学力を伸ばそうとしてくれています。私の場合はとても難しいです。私は先生たちの努力にとっても感謝しています。自分の学力は乏しいですが、いつもできる限り素直な気持ちで勉強に取り組んでいます。

大学の国際交流課のスタッフの皆さん、皆さんのおかげで、私の高知での生活はとても意味のあるものになっています。皆さんの親しみやすい接し方と笑顔で、私がこうして、困難に立ち向かうことができます。皆さんのサポートや思いやりのある対応にとっても感謝しています。これからは、私は理科教育の研究に集中し、高知にはまだしばらく滞在します。

最後にさまざまな分野、特に教育の分野を高めるための理科教育を海外の人が経験でき、海外、特にフィリピンへの支援をしてくれる日本政府に深く感謝したいです。私はこの美しい国に住み、勉強する機会を与えてもらい、本当に幸運です。今後、自分の滞在目的が達成できるように努力していきます。最後に、日本の人々の生活にある文化の親切さや温かさに拍手を送りたいと思います。

高知大学が大好き

シジル アミンズル (SHIJIR AMINZUL) 農学部 農学科流域環境工学コース2年生/モンゴル



私は高知大学が大好きです。なぜならば、子供の時から高知県に短期留学の形で、2ヶ月の期間で3回ほど来たことがあります。そのときから、高知大学は私の夢となりました。今、頑張ってきて、半年になっています。大学に入学してから充実した大学生活を送っています。日本人だけではなく、外国人の友達もたくさん作り、また、勉強だけではなくサークル活動もやっています。高知大学は、いろいろ揃ったいいところなので、皆さんぜひ楽しんでください。

笑顔の高知大学ようこそ!!!

日本での体験はかけがえのない宝物

鄭致遠 (Zheng Zhiyuan) 教育学部 特別聴講学生/中国 (安徽大学)



日本に来てからもうすぐ半年になります。時間の経つのは本当に速いものです。最初、日本に来た時の自分は日本語の会話力に全然自信がありませんでした。しかし、高知県の人々はとても親切で、いつも笑顔で私と話してくれて、私はすごく感動しました。この親切のおかげで、自分もだんだん胸を張って会話できるようになりました。思い返せば、今の会話力は最初の時とは比べ物にならないぐらいに上手になった気がします。会話力だけではなく、高知大学の先生たちは日本語を教えてくださいましたので、聴解や読解なども以前よりずっと上手になったと思います。

そして、高知大学はいろいろなイベントを用意してくださいましたので、日本の文化に触れるチャンスと日本人との交流のチャンスが増えて、本当にありがたいと思います。

私は高知大学のサークルにも入りました。日本のサークル活動はとても自由で面白かったです。同じ趣味を持っている同士と巡り会えて、高知大学に来られて、自分はとても幸運だと思います。

いろいろなところに行って、いろいろな人と出会って、いろいろなイベントに参加して、日本に対する理解がより一層深くなってきました。そして、自分の視野も前よりずっと広がった気がします。私にとって日本での体験はかけがえのない宝物です。

海外協定校への留学体験談

友情という宝物

古谷 陽介 人文学部国際社会コミュニケーション4年生/日本

私は2013年9月から2014年1月まで、中国安徽省にある安徽大学に交換留学いたしました。授業が始まった9月当初は、先生が授業で話している内容がほとんど理解できず苦勞しましたが、月曜日から金曜日まで週5日、午前8時から午前11時40分までみっちり授業があるので、留学を始めて1ヶ月くらい経つと先生が話している内容もほとんど理解できるようになりました。

私の留学生活はたくさんの中国人の方に支えられたものであり、特に安徽大学の男子学生の王さんには、とてもお世話になりました。王さんとは大学の近くのカフェで出会いました。私がいつものように、学校の近くのカフェでコーヒーを飲みながら中国語を勉強していた時、王さんは私に突然話しかけてきました。私が中国語のテキストを使って勉強していたので私の事を外国人だとわかったのでしょう。彼は様々な質問を私に投げかけてきました。「どこからきたの?」「なぜ中国語の勉強を始めたの?」「中国の生活で困っていることはない?」王さんとの会話はとても楽しく、すぐに仲良くなりました。その時、私は王さんと電話番号を交換し、週に一度、中国語を教えてもらう事になりました。

私は彼から中国語だけではなく、中国の文化、歴史、習慣など様々な事を教わりました。また、王さんは日本についても興味を持っていたので、私も日本の文化や習慣など彼に教えました。

私が安徽大学での留学を終え、安徽省を立つ三日前、私は彼と写真を撮りました。彼はその日の内に写真を現像して私にプレゼントしてくれました。その写真は私と彼の友情のシンボルとなりました。

王さんとの友情。それは安徽大学での留学生活を通して得た一番の宝物です。国が違う、文化が違う、考え方が違う。その違いがあるがままに受け入れ、認めあうことで得られるもの、それが国を超えた友情だと私は思います。私は留学生活を通してその友情に出会うことができました。私は、安徽大学に留学させていただいて本当に良かったと思います。



台湾 東海大学への留学を経て

近藤 花名 人文学部国際社会コミュニケーション学科4年生/日本

私は台湾の東海大学に1年間(2学期間)留学していました。大学入学以前から大学在学中に交換留学の制度を用いて海外へ長期留学することを希望しており、2年生の後期に念願叶って台湾へ行くことになりました。繁体字を用いた中国語の習得や日本語教育の現場を見ることなど、留学の目的は様々ありましたが、一番は自分自身を変えることでした。私は小さい頃から人見知りやひどく、なかなか自分を外に出すことができませんでした。日本を離れて全く違う環境に身を置くことで自分を客観的に見られ、そこから自分自身を変えることができるのではないかと思います。留学を決意しました。

環境は学内外どれをとっても良いものでした。学内の中国語センター(華語中心)では少人数制度が採用されており、学生一人ひとりの意見が尊重されるため、望めば自ら学習環境を変えることができます。東海大学は、学内はもちろん、都市部に位置するため周辺の施設や交通の便も整っており、自ら行動するのに最適です。何事も自由度が高く、学習面においても生活面においても、自分が行動すれば行動するほど環境を変えられることができました。

台湾で様々な人と出会い話をするうちに、どんどん自分を出す勇気が湧いてきました。中国語に慣れるまでは大変でしたが、おかげで自ら行動して環境と自身を変えることができ、さらに自信も持てるようになりました。台湾で出会った人々にはかけがえのない存在です。私の経験がこれから留学をする人の希望になったら幸いです。ありがとうございました。



日本語教育に生かせる体験

秋森 夕姫 人文学部国際社会コミュニケーション学科4回生/日本

私は2013年8月末~12月末までの4ヶ月間、韓国の白石大学(백석대학교)に交換留学をしました。留学では、韓国語の習得はもちろん、私が主に勉強している日本語教育の現場を見て、聞いて、体験することができました。4ヶ月間はあっという間でしたが、「語学習得」と「日本語教育に生かせる体験をする」という2つの目的をしっかり持っていたことで、授業等を通して多くの友人に出会えたり、良いことも悪いことも全て含めたくさんの経験を積むことができました。先に交換留学を経験していた先輩や後輩が皆、口をそろえてアドバイスしてくれた「目的を持った留学をする」という意味を理解出来たと思います。さらに、韓国人の学生との交流を通して日本とはまた違った、大学生活に対する価値観や就職活動の制度の違いなど、韓国での学生生活をしてみないと分からないこともたくさん知ることができとても有意義な留学生活を過ごすことができました。出発前は慣れない環境への不安から、留学に行くことを躊躇していましたが、出会いと経験は多ければ多いほど自分の可能性を伸ばしてくれるものなのだという事を実感しました。留学生活自体は終わってしまいましたが、この留学が私の韓国語の勉強のスタートだと思って、これからも更なるレベルアップをしていきたいです。



高知大学帰国留学生ネットワーク—中国（同窓会メッセージ）

手を携え共に明日へ

南京航空航天大学 教授 高知大学帰国留学生ネットワーク（中国）同窓会副会長 朱孔軍



2009年11月15日に高知大学帰国留学生ネットワーク（中国上海地域）同窓会が設立されたことを機に、高知大学の帰国留学生の間で、緊密に連絡を取ることが増えてきた。また、同窓会組織を、中国上海地域から中国全土の高知大学帰国留学生へと範囲を広げ、2013年3月30日第2回の総会が上海にて開催された。この総会には上海、大連、天津、江蘇、安徽、江西、浙江等の地域から多くの帰国留学生が参加され、また、菊地副学長が率いる高知大学の代表団も出席された。

総会では、菊地副学長が同窓会の中国全土への展開の意義や高知大学の新たな歩み等について語られ、卒業生のみなさんに、是非高知大学を誇りに、母校のアピール、母校の発展を支援してもらいたいと呼び掛けられた。また、同窓会規則に則り、第2期会長、副会長、幹事が選出された。卒業生の皆さんもそれぞれ近況報告され、夜の交流会では高知大学での思い出を語り合った。

中国同窓会は高知大学帰国留学生の唯一の同窓会組織として、帰国留学生間の相互交流、相互支援を促しただけでなく、母校高知大学に在学中の中国人留学生との交流の懸け橋にもなった。総会において私は光栄にも副会長の職を任された。今後母校との連携強化、帰国留学生との交流、副会長としての責任を果たすべく、精一杯同窓会の活動に力を注ぐ所存である。

中国の社会経済は急速に発展し、今や変化期に差し掛かっており、公平且つ活力に溢れる国造りが当面の重要課題となっている。この課題をクリアするには意識改革、新機軸を打ち出し、そして、更なる対外交流が求められる。国際的な視野を持ち、時代を先行する意識と発想、さらに先進的な科学技術を身に付けている留学生の皆さんにとってはまさに絶好のチャンスであると考え。是非とも高知大学在学中の留学生の皆さんにますます学業に励んでいただき、高知大学での勉学修了後、自分に適した仕事が見つけられ、すばらしい人生を歩んでいただきたいと願っている。

2013年10月14日、高知大学の中国における初めての海外事務所—高知大学安徽事務所が開設された。脇口宏学長が自ら代表団を率いて開所式に臨まれたことは、高知大学が中国との交流、ひいては帰国留学生との連携交流を極めて重要視されていることの証である。この新たな交流のプラットフォームを提供してくださった母校—高知大学に心から感謝している。

帰国留学生の皆さん、そして現在高知大学に勉学中の留学生の皆さん、これからは共に高知大学での思い出を語り、共に手を携えて明日へ歩んで行こう。そして、共に中日友好のために頑張ってください！

最後に2014年3月7日、高知大学で開催された中国同窓会セミナーに呼んでいただき、多くの教職員と現役の留学生と交流の機会を与えていただいた母校にこの場を借りて感謝の意を表したい。

海外協定校交流実績一覧

派遣実績（2008年度～2013年度）

年度	クワンソングン大学	リイエーテポ	安徽大学	佳木斯大学	潘陽薬科大学	上海交通	東海大学	中山大学	韓瑞大学	白石大学	釜山外国語	金剛大学	漢陽大学	東国大学	徳成女子	ピョートル	ヤラビジャ	南浦ヘミア	コンケン	ハノイ工科大学	タマサート	サッサリ	タンジュン	計
2008		2	1	1		1				1	1	1			1		1	1	1,1	1				15(14)
2009		2,1				1				1	2	1	1		1	1								11(5)
2010	1	1,2	2					1		1		1,1	1	1										12(9)
2011		1※,2	2		1	1	1,1		2	1			2											14(11)
2012	1,1	1,2	1				2			1	1	2		1									1	13(12)
2013	1	3,1	1				1,1			2				1,1							3	2	1	18(7)
																								合計 83(58)

※留学生交流支援制度（短期派遣）追加募集により3カ月分の奨学金も受給

※交流協定校とは不徴収協定を締結しているため、授業料は免除。（ ）内は、内数で私費留学。

□=留学生交流支援制度（短期派遣、SS&SV）【日本学生支援機構】等 □=高知大学国際交流基金 □=韓日奨学金（NIIED） □=私費

受入れ実績（2008年度～2013年度）

年度	クワンソングン大学	リイエーテポ	安徽大学	佳木斯大学	常州大学	上海交通	陝西科技	天津師範	上海海洋	南京航空	東海大学	中国文化	韓瑞大学	白石大学	釜山外国語	金剛大学	漢陽大学	東国大学	徳成女子	カセサート	ピョートル	ヤラビジャ	農科大	タンジュン	コンケン	ハノイ教育	マレーシア	サッサリ	北京聯合	明知大学	計
2008		3	1,4	5										1,1	1			1	1												19(14)
2009		3	6	8		1		3			3		1	1	1	1,2	3	1,1	1,2	1					2						42(25)
2010		3	6	8	3		1	3			4		1	2	2	2	2	1,1		2	1		2	1		1	2				48(34)
2011		1	6	5	2,1			1,2			6		2	1,3	1	3	1	2													37(31)
2012		3	1,7	3	4			3	1	8	3	3		1,6	1	1		3		1											49(45)
2013	2	3	10	3	3		2	3	3	7	3	3	2	1,5	1					1	1		1	3,2			3	2	2	66(56)	
																														合計 261(205)	

※交流協定校とは不徴収協定を締結しているため、授業料は免除。（ ）内は、内数で私費留学。

□=留学生交流支援制度（短期受入れ、SS&SV）【日本学生支援機構】等 □=日本政府（文部科学省）日本語・日本文化研修留学生

□=日本政府（文部科学省）JENESYSプログラム（21世紀東アジア青少年大交流計画） □=SUJJI（Six University Initiative Japan Indonesia）関連

□=文部科学省国費研究留学生 □=私費

「地域中小企業の海外人材育成確保・定着支援事業」 （「アジア人財資金構想」高度実践留學生育成事業自立化後）



高知大学が四国6大学と連携し、平成19年度から平成23年度まで（23年度は本学独自事業）経済産業省委託事業として、日本企業への就職を希望する留學生に留學生育成プログラムを実施することにより、企業の求めるグローバル人材の育成と留學生の円滑な就職を支援するアジア人財資金構想高度実践留學生育成事業を実施してきた。本年度は、前述の事業の元管理法人である四国生産性本部が申請した「地域中小企業の海外人材育成確保・定着支援事業」が採択され、次の事業を実施しました。

●平成25年度高知地域連絡会

平成25年11月20日(水) 13:00～（総合研究棟会議室2）

「アジア人財資金構想」高度実践留學生育成事業を高知地域において効果的かつ円滑に推進するために、各関係機関の協力・連携を図る場として設置された高知地域連絡会を本年度においても引き続き実施し、「地域中小企業の海外人材育成確保・定着支援事業」の説明及び情報交換等を行いました。

概要：四国生産性本部から「地域中小企業の海外人材育成確保・定着支援事業」に係るスケジュールや実施体制についての説明及び「企業合同研究セミナー」の開催について報告がありました。高知大学からは留學生のための就職ガイダンスの実施状況、留學生の在籍状況、平成25年3月卒業及び平成26年3月卒業見込みの留學生の進路状況等が報告されました。各団体・機関（高知県、高知県中小企業団体中央会、高知県経営者協会等）からも現況報告され、意見・情報交換等が行われました。（参加者15名）

●インターンシップ報告会

平成25年11月20日(水) 14:15～（総合研究棟会議室1）

概要：高知県内企業等で、インターンシップを実施した日本での就職を希望する留學生3名による報告会が行われ、インターンシップで経験した業務内容や感じたこと、得られた成果等が発表されました。留學生を受け入れてくれた企業等の担当者からは、今回の経験を活かして、これからも頑張ってほしいなどの激励の言葉をいただき、留學生も感激の様子でした。（参加者26名）

●留學生のための就職ガイダンス（講師：鈴木賞子氏〈人事コンサルタント〉）

2013年7月から11月にかけて、「日本で行う就職活動のスケジュールと仕組み」、「外国人留學生採用の現状と企業が求める人材」、「就職活動の準備－自己分析・業界研究・仕事研究－」、「エントリー－オープンセミナー・会社説明会・エントリーシート－」、「採用試験・面接・内定から入社まで－筆記試験・面接・内定から入社まで－」のテーマで、計5回就職ガイダンスを実施しました。

●留學生採用支援セミナー

平成25年11月20日(水) 15:30～（総合研究棟会議室1）

講演Ⅰ「留學生採用の効果」高知県内企業2社による事例発表

講演Ⅱ「留學生採用の際の留意点」行政書士による手続き等の説明（参加者20名）



高知地域連絡会



インターンシップ報告会



就職ガイダンス



留學生採用支援セミナー

2013年度留学生関係活動報告

留学生と学長を囲む会

2013年5月29日(水)

本学で学ぶ外国人留学生に普段触れ合うことや話を聴く機会が少ない学長と懇談することで、本学や日本の良さなど国際理解を深めてもらうことを目的に開催しました。中国、モンゴル、インドネシア、タイ、マレーシア、セルビア、オーストラリアなどの外国人留学生27名と脇口学長のほか国際交流担当教職員10名が参加しました。



講演をする脇口学長

脇口学長から「日本人の心」をテーマに、日本人の特徴は日本文化のルーツとしての武士道の精神に由来していることなど歴史的背景を交えて話題提供をいただきました。その後サークル形に囲んで行われた懇談では、和やかに留学生が学長に素朴な質問を行いました。「日本人は遠回しではっきり言わないことがあるので、どう付き合ったらよいか迷うことがある」などの質問があり、学長からは、「日本人は感情を抑えることがあるが、高知の人は、親切で面倒見が良いので、一步入り込んでほしい。後輩のために問題点を積極的に提言してほしい」などアドバイスもなされ、留学生にとって貴重な機会となりました。

留学生と日本人学生の合同講習交流会

2013年7月28日(日) 県立牧野植物園



留学生による発表

チューター・海外留学希望の日本人学生と留学生の相互交流理解を促す目的で、本年度初めての合同講習交流会を実施しました。留学生・日本人学生・教職員、高知県立大学の日本人学生1名のあわせて約30人が参加しました。

合同講習交流会では、協定校からの留学生による大学紹介、それぞれの国の文化紹介や日本人学生からの留学体験記等が報告されました。その後グループに分かれ、チューター制度に関して、留学生、日本人学生でチューター経験者からのチューター制度に関する意見交換が行われました。また昼食をはさんで牧野植物園の藤川研究員による「植物を通じた国際協力—ミャンマーでの薬用ランの栽培」と題した講演を聞いた後、園内散策が行われ、この機会を通じて留学生と日本人学生の交流を深めることができました。

外国人学生のための進学説明会 (JASSO)

2013年7月14日(日)東京、7月21日(日)大阪

日本学生支援機構 (JASSO) 主催の「外国人学生のための進学説明会」が東京、大阪で開催され、それぞれ教職員3名が参加しました。学部や大学院への進学希望の外国人学生に対して、本学の特色や入試等に関する最新の情報提供を行いました。なお、昨年度の本進学説明会の来場者の中から今年度5名の留学生が入学しており、広報の効果が期待できる

説明会です。

(東京会場) 来場者：2,327名
(昨年度：2,507名)、本学ブース訪問者：28名

(大阪会場) 来場者：1,095名
(昨年度：1,350名)、本学ブース訪問者：39名



東京会場での説明会

殿様御殿で音楽コンサート、 地元の方々と留学生の交流

2013年10月5日(土)

台風接近中の10月5日(土)、大豊町の山中の茅葺の伝統家屋にマリimbaやバイオリン、そしてジャズの音色が響き、高知大学の留学生が地元の人々とともに聞き入りました。



場所は、大豊町立川。高知の立川(たじかわ)パーキングの付近の山村です。この国重要文化財「立川番所」は土佐山内家の殿様が参勤交代で江戸に向かう際、土佐路最後の宿となった由緒ある建物。高知大学はここで大豊町、NEXCO西日本ファシリティーズとともに、音楽会を主催しました。

この参勤交代道は、18世紀から整備され、1000人を超す土佐藩の大名行列の通る道として、大事に維持されてきました。立川番所は明治時代になって個人の手になり旅人宿となりましたが、昭和48年大豊町が譲り受け、旧立川番所書院として国の重要文化財に指定されたものです。

高知大学の留学生たちは、まず地元の人々に教えられて竹細工に挑戦。その後、参勤交代道の歴史を山内家宝物資料館の渡部館長から神妙に聞いていました。音楽は、高知市出身のマリimba奏者市川みどりさんをはじめ、大豊にゆかりのある人たちによる演奏。地元や四国中央市などから100名以上が聴きに集まり、留学生も歴史ある建物で音楽の演奏を楽しみました。

カツオセミナー

2013年10月30日(水)

2013年10月30日(水) 留学生を対象に、カツオセミナーが開催されました。当日は高知県漁業協同組合佐賀統括支所・黒潮町協力の下、カツオ



たたきの実演が行われ、脂の乗ったカツオを捌いた後、留学生が薬焼きに挑戦しました。また、「土佐の魚食を支えるカツオについて考える」のテーマで、本学の受田浩之副学長がカツオの歴史やカツオの摂取効果等について講演しました。講演会終了後、農学部の島村智子准教授らの協力を得て、眼精疲労回復に効くカツオの試食前と試食後のデータを測定し、測定した全員にカツオ試食後に眼精疲労回復の効果がみられたという驚異的なデータが得られました。本企画は、留学生にとって高知県の食文化に触れる貴重な体験となりました。

2013年度留学生関係活動報告

た。なお、この活動は2013年度学長裁量経費「地域教材カットによる副読本作成と国際連携教育研究」の研究テーマの一環として実施したものです。

外国人留学生課外研修 (大洲市)

2013年11月9日(土)～10日(日)



交流のようす

2013年度入学の外国人留学生を対象に愛媛県大洲市への1泊2日の課外研修を行いました。この研修は、外国人留学生が日本の歴史や文化を体験し、地域への理解を深めるとともに、留学生間の親睦・交流を図ることを目的としており、留学生43名、日本人学生ボランティア2名、引率の教職員10名が参加しました。宿泊先の国立大洲青少年交流の家では、普段交流が比較的少なく距離のあるキャンパスの学生同士のほか教職員と、寝食を共にすることやグループワークでの仲間づくりなどを通して、交流を深めることができました。参加した留学生からは、「日本の文化や伝統に触れることができた」、「グループ活動で仲間を作ることができた。」などの感想があり、留学生にとって有意義なものとなりました。

2013年度学長主催外国人留学生等交流懇談会

2013年12月4日(水)

高知商工会館において、学長主催外国人留学生等交流懇談会を開催しました。外国人留学生等の入場の際には、脇口学長と菊地副学長によるおもてなしと歓迎の気持ちが込められた出迎えが行われました。また脇口学長による尺八演奏や留学生等によるステージパフォーマンスなどもあり、国を超えて楽しく歓談する様子があちこちで見られました。本年度は、外国人研究者の参加もあり176名にものぼる参加者がありました。



留学生を握手で迎える脇口学長

ミニサービスディ

2014年1月17日(金)

2014年1月17日(金)朝倉ふれあいセンターにおいて開催された高知市老人クラブ連合会主催の地域交流ミニディにスウェーデンから交換留学で来ている3人の留学生が参加し、老人会の皆さまと交流の場を持ちました。3人の留学生はスウェーデンの国や文化、お料理、言葉等を紹介し、また、ギターの生演奏による歌を披露しました。老人会からは三味線の生演奏が披露されました。そのほかにも輪投げゲーム、よさこいダンス、きよしズンドコ体操など、老人会の皆様とともに参加し、和気あいあいの雰囲気の中で、交流が行われました。また、お昼は和食弁当とふれあいセンタースタッフの手作りおぜんざいが振る舞われ、双方にとって異文化体験づくりの交流会となりました。



国際C級グルメ大会

2014年1月25日(土)

2014年1月25日(土)朝倉ふれあいセンターにおいて、朝倉ふれあい広場実行委員会主催の国際C級グルメ大会に、本学の韓国、スウェーデン、中国、フィリピン、モンゴルからの留学生が参加しました。また新納特任教授も腕を振るい、タイサラダ(ヤムウンセン)を作られ、合計6か国の料理の出品となりました。早朝9時からふれあいセンター調理室が熱気に包まれ、野菜を洗ったり、生地をこねたり、また慣れた手つきで包丁さばきもなかなかのもので、様々な言語が飛び交う中、みなさんは料理作りに余念がありませんでした。大会は12時から始まり、地元の方々からもご自慢の家庭料理が出品され、どのお料理も真似したいぐらいに美味しく、会場のみなさんは笑みをこぼしながら、色とりどりのお料理を堪能し、大変有意義な食文化の国際交流の場となりました。実行委員会からよい企画なので、是非来年もやりたいとのコメントがありました。



フィリピン料理に挑戦!

2014年2月9日(日)

2014年2月9日(日)朝倉小校区青少年育成協議会主催で、朝倉中学校の生徒を対象にした料理教室が朝倉ふれあいセンターにて開催されました。今回のテーマは「フィリピン料理に挑戦!」で、本学のフィリピンからの留学生、アレックスさんとラリーさんが講師に招かれ、エビのサワスープと揚げ茄子の作り方を指導しました。朝倉中学校の生徒たちは熱心にメモをとったり、質問したりしてフィリピン料理作りにチャレンジしました。料理はなかなかの出来栄で、参加者一同で試食しました。「酸味が効いていて、おいしい」、「野菜たっぷり健康的」、「家でも作りたい」との感想が寄せられました。当日は中学校の生徒たちだけでなく、朝倉中学校の先生及び青少年育成協議会のメンバーも参加され、食を通じて、国際交流、国際理解を図ることができました。



2013年度日本語予備教育コース

2013年10月2日(水)～2014年2月4日(火)

2013年度日本語予備教育課程を開講し、第2学期にフィリピンからの教員研修留学生(国費)が1名受講しました。日本語の学習経験は無く、50音の読み書きからのスタートでした。しかし週30時間を学習し、半年後に行われた閉講式では、出席者が驚くほどの流暢な日本語で、謝辞を述べるまで上達しました。



閉講式

開講式 10月2日(水) 閉講式 2月4日(火)

2013年度国際交流関係活動報告

大学間協定締結（北京外国語大学）

2013年7月12日（金）

7月12日（金）、北京外国語大学にて、本学と北京外国語大学との間の学術交流協定書及び学生交流に関する覚書を締結しました。

本学の菊地副学長、北京外国語大学から金莉副学長が調印式に臨まれ、それぞれの大学紹介や両大学における今後の交流の展望について話し合いが行われました。



調印式の様子

大学間協定5大学関係者学長表敬訪問

2013年8月6日（火）

（陝西科技大学、南京航空航天大学、常州大学、サルティジョ工科大学、国立ポリテック工科大学応用研究所サルティジョ校）

8月6日（火）、大学間協定校である陝西科技大学（中国）、南京航空航天大学（中国）、常州大学（中国）、サルティジョ工科大学（メキシコ）および国立ポリテック工科大学応用研究所サルティジョ校（メキシコ）から、それぞれ学部長など7名が来学しました。今回の訪問は、前日の5日（月）から6日（火）にかけて高知大学内で開催されたGreen Science Joint Seminar 2013に参加するために本学を訪問されたもの。表敬訪問では、それぞれ大学から概要や交流の現状の説明が行われた後、今後の学術研究や学生交流の増加などについて積極的な意見交換が行われました。



集合写真

Green Science Joint Seminar 2013は、本学の複合領域科学部門において研究の展開を図っているグリーンサイエンスに関する研究の情報交換、大学院生への英語での研究発表の機会の提供、グリーン人材育成コースでの海外インターン派遣先の探索、協定校との友好関係の増進を図るために開催されたもので、総勢107名が参加しました。今後は6大学、多国間による共同研究・学生交流の発展が益々期待されます。

第3回SUIJIセミナー高知大会

2013年8月28日（水）～30日（金）



6大学学長等

本学当番で8月28日（水）～30日（金）に「第3回SUIJIセミナー高知大会」を南国市のサザンシティホテルで開催。「大学は地域とどうかかわるのか（地域協働・サービスラーニング）」をテーマに各学の教員、学生ら約200名が参加しました。

SUIJI (Six University Initiative Japan Indonesia) とは、2011年に創設したインドネシア3大学（ガジャマダ大学、ポゴール農業大学、ハサヌディン大学）、四国3大学（愛媛大学、香川大学、高知大学）の6大学のコンソーシアムであり、熱帯地域における農業発展に関する教育研究を協働ですすめることを目指すものです。

8月29日の午前中は、シンポジウム「地域との学び、地域からの学び：日本とインドネシアの連携による大学-地域間協働の展開」では、サービス・ラーニングとは何か、サーバント・リーダーとは何かについて考え方を探り、大学と地域社会との理想的な関わり方について提言がなされました。学生フォーラムでは、今後のSUIJI学生ネット

ワークの在り方について話し合いが行われ、研究者フォーラムでは、現在の研究や共同研究の可能性について発表がなされました。

午後の学長フォーラムでは、社会協働教育の実践とSUIJIサービス・ラーニングの今後の方向性についてSUIJIの各大学の学長から発表が行われ、最後に、今回のセミナーでの議論を踏まえ、6大学長等による「サービス・ラーニングプログラムの覚書」とSUIJIの今後の行動計画を盛り込んだ「高知宣言」に署名が行われました。

なお、前日の8月28日には、SUIJIの運営に係る事項について協議が行われ、来年度はインドネシアのハサヌディン大学が当番でセミナーを開催することが決定されました。また、8月30日には牧野植物園高知城へのエクスカージョンが行われました。

今回のセミナーを通して、サービス・ラーニングや地域社会との協働に関する経験を共有しSUIJIの将来の発展について方向性を示すことができました。

高知大学安徽事務所開所式

2013年10月14日（月）

国際交流を推進するため、中国における本学の海外拠点として、国際的な共同研究、留学生の受入・派遣、海外広報の業務など本学の情報発信等を目的として、中国国内では初の海外事務所となる「高知大学安徽事務所」を大学間協定校である中国の安徽大学内に開設しました。開所にあたり、10月14日、高知大学安徽事務所において開所式を開催。開所式には、本学の脇口学長のほか学内関係者、安徽大学から程樺学長他関係者、来賓として日本学術振興会北京研究連絡センターや高知大学中国同窓会、高知県貿易協会上海事務所関係者が出席し、安徽事務所開設を祝いました。高知大学安徽事務所では、中国の諸大学との研究者の交流及び国際的な共同研究への支援をはじめとして、優秀な人材獲得やそのネットワーク形成、本学の情報発信等広報活動などを行っていく予定です。



記念写真

帰国留学生ネットワーク中国

一同窓会セミナーを開催

2014年3月7日（金）

高知大学では、2014年3月7日（金）に朝倉キャンパス内の生協食堂にて、現在本学に在籍中の中国籍外国人留学生および外国人研究者などに対して、高知大学帰国同窓会ネットワーク（中国）（以下、高知大学中国同窓会）のセミナーおよび交流会を開催しました。



このセミナーでは、平成25年度高知大学国際交流基金助成金（海外事務所・留学生ネットワーク等構築事業（帰国外国人留学生等短期招へい事業））で招聘した高知大学中国同窓会の会員（副会長：朱孔軍

南京航空航天大学教授）から、今までの活動や今後の展望について話をいただきました。高知大学中国同窓会は2009年に11月に設立され、2010年8月に高知大学内でホームカミングデーを実施、2013年3月に第2回総会が上海で開催されています。今回のセミナーには留学生など35名が参加し、朱教授によるこれまでの活動の様子について、写真を交えた紹介が行われました。朱教授からは今後中国に帰国した後も、この会にぜひ入って高知大学や卒業生たちとつながり、高知大学との絆をさらに深め、かけ橋になってもらいたいとのメッセージが送られました。引き続き行われた交流会では、既に本学を卒業し高知県内に就職した元留学生も参加し、教職員も交えた和やかな交流会となりました。

▶▶▶▶▶ 2013 年度研修・講演会関係 ◀◀◀◀◀

「臨時一語」の研究と教育

—文章とのかかわりを中心に— 2013年6月15日(土)

2013年6月15日(土)に、高知大学国際・地域連携センター主催の講演会及びワークショップが行われました。講師には、大阪大学教授石井正彦氏をお招きし、「臨時一語」の研究と教育—文章とのかかわりを中心に—という演題でお話をうかがいました。

講演会では、まず臨時一語の命名、臨時一語の発生事情、そして臨時一語を作る文法、さらに現代新聞の文章と臨時一語の深い縁についてご説明いただきました。また、臨時一語の調査についての詳細なデータ資料が提示され、臨時一語の機能、文章顕現型の臨時一語化、文章構造機能としての臨時一語化について具体例をもってご説明いただきました。講師の先生が長年研究を重ねて来られた研究成果のエキスが披露されました。「臨時一語」は、これまで語構成や文法の問題として扱われてきましたが、最近では、文章の構成や展開にかかわる現象として注目されるようになり、今後この研究が文章の読解や作文の教育に大いに寄与できるのではないかと期待されます。



ワークショップでは、講演会のテーマをさらに深く掘り下げて、参加者が講師の先生と議論が交わされました。臨時一語が形成される一例として、「不良債権を処理する」→「不良債権の処理」→「不良債権処理」へとそれぞれの使用時期と使用期間を示すグラフを提示していただき、参加者は納得している様子が見受けられました。また、文章構造機能としての臨時一語化について提示されているパターンを是非教育の現場で活用したい

と参加した方からのコメントもあり、大変有意義な場となりました。

と参加した方からのコメントもあり、大変有意義な場となりました。

参加した方々からは「いつも何となく見ている文章の奥深さを感じました」「いままでまったく触れたことのない分野の話で、こういう機会が得られて有り難かった。具体例が多くて、分かり易いお話を頂きました」、「あまり今まで深く考えた事がない内容の講義だったのですが、興味深かった」、「文学の研究方法について新しい目を持つことができました」、等の意見・感想が寄せられ、充実したひと時が共有できました。主催者としても大変嬉しく思っています。



異文化理解コミュニケーションシンポジウム

2013年11月6日(水)

2013年11月6日(水)、中国と日本の言語と文化への理解を深めることにより異文化理解マインドを培い、国際協調、世界平和へ向けて一歩前進することを目的として、高知大学国際・地域連携センター国際連携部門主催「異文化理解コミュニケーションシンポジウム」が開催されました。大学間協定校である安徽大学(中国)外語学院の朱跃院長をはじめ、安徽大学からお迎えしている唐千友特任教員、遠藤隆俊教育学部長および土佐さきがけプログラムの前西繁成特任教員の4人をパネリストとして、学ぶことの多いシンポジウムになりました。高知大学で学ぶ留学生、日本人学生、教職員、高知地域留学生交流推進会議メンバーなど約90名が参加し、それぞれのパネリストが熱く語る日中の言語や文化の違い、歴史について熱心に耳を傾け、実りのある国際交流の場となりました。



「高知家」の大家族に仲間入り

高知大学中国語センター特任教員
唐 千友



2013年9月の末、中国・安徽省からまいりました唐千友です。「高知家」に入り、間もなく、半年となります。外国で中国語を教えるのはそれこそ初めてです。「一緒に勉強して行こうか」という気持ちを持ちながら、忙しい教員生活を始めました。授業の風景はもちろん中国のとちょっと違い、先生としての私は中国語を教えるのに日本語で解釈する一方、日本語を母語とする学生は私の言う日本語を直したりしてくれるから、「一緒に勉強する」という雰囲気が教室に漂っています。時には、異文化による笑い話はみんなを笑わせます。授業を面白くすると同時に、お互いに日中異文化への相互理解を深めました。

そして、仕事だけでなく、日常生活でも、いろいろな人との出会いがあり、いろいろな体験や見聞を広めることができました。また、この目で緑いっぱい山々、赤くて鮮やかな紅葉、悠久なる歴史を語る高知城、見渡す限り広大な太平洋などといった竜馬の故郷のすてきな風景を満喫し、この身で「高知家」という温かい大家族の温もりを味わえて、貴重な勉強の機会をいただきました。「来てよかったなあ」という気持ちを持ちながら、任期満了まで頑張りたいと考えています。

2014年度第1学期 国際連携推進センター教員(専任・非常勤)担当授業時間割

時限	開講キャンパス等	月(MON)	火(TUE)	水(WED)	木(THU)	金(FRI)
I 8:50~10:20	日本語集中(朝倉)	基礎文法(吉田)	基礎文法(尾中)	基礎文法(池)	基礎文法(神崎)	基礎文法(石川)
	日本語総合(朝倉)			中級聴解I(今井)		
	日本語総合(物部)		初級IV(神崎)		初級IV(今井)	
	日本語総合(物部)				初級聴解・会話(林)	
II 10:30~12:00	日本語集中(朝倉)	基礎文法(吉田)	基礎文法(尾中)	基礎文法(池)	基礎文法(神崎)	基礎文法(石川)
	日本語総合(朝倉)	初中級文型(神崎)		初中級会話I(今井)	中級漢字・語彙I(石川)	中級会話I(池)
	日本語総合(物部)		初級II(神崎)		初級II(今井)	
	共通教育		日本語I(林)・中国語I(唐)			
III 13:10~14:40	日本語集中(朝倉)	初級漢字・語彙(尾中)	初級聴解・会話(林)		初級聴解・会話(神崎)	初級作文(吉田)
	日本語総合(朝倉)	中級作文(神崎)				
	国際人材コース					Political Economy of Japan(新納)
	国際人材コース					実践中国語特別演習I(唐)
	カウンセリング			朝倉(市川)14:00~16:00		
	カウンセリング			物部(東條)13:00~15:00		
IV 14:50~16:20	オフィスアワー		エバ	唐		
	日本語総合(朝倉)				アカデミック日本語I(林)	
	教育学部			異文化理解A(林)		
V 16:30~18:00	日本語総合(朝倉)	神崎	エバ、林	唐	神崎	
	日本語総合(岡豊)			日本語中級(東條)	日本語初級・日本事情(東條)	
	国際人材コース		実践中国語演習I(唐)			

2014年度第2学期 国際連携推進センター開講授業予定

プログラム別	科目名	開講キャンパス
日本語総合コース(補講)	初中級文法	朝倉
日本語総合コース(補講)	初中級会話II	朝倉
日本語総合コース(補講)	中級漢字・語彙II	朝倉
日本語総合コース(補講)	中級聴解II	朝倉
日本語総合コース(補講)	中級会話II	朝倉
日本語総合コース(補講)	中級読解	朝倉
日本語総合コース(補講)	アカデミック日本語II	朝倉

プログラム別	科目名	開講キャンパス
日本語総合コース(補講)	日本語初級I	物部
日本語総合コース(補講)	日本語初級III	物部
日本語総合コース(補講)	初中級聴解・会話	物部
日本語総合コース(補講)	日本事情	物部
日本語総合コース(補講)	日本語初級・日本事情	岡豊
日本語総合コース(補講)	日本語中級	岡豊

年間行事予定

1学期

- 4月
 - ・新入生オリエンテーション(朝倉キャンパス)
 - ・朝倉・物部キャンパス日本語補講オリエンテーション及びプレースメントテスト(対象:新入生・在来生)
 - ・日本語補講授業開始(15週)
 - ・健康診断(朝倉及び物部キャンパス)
 - ・チューターオリエンテーション
- 5月
 - ・学長との懇談会
 - ・カルチャーカフェ
- 6月
 - ・日本語講演会
- 7月
 - ・海外留学に関する説明会
 - ・留学生と日本人学生の合同講習会

2学期

- 10月
 - ・新入生オリエンテーション(朝倉・物部キャンパス)
 - ・朝倉・物部キャンパス日本語補講オリエンテーション及びプレースメントテスト(対象:新入生・在来生)
 - ・日本語補講授業開始(15週)
 - ・健康診断(新入生対象 朝倉及び物部キャンパス)
 - ・チューターオリエンテーション
 - ・黒潮祭・南風祭
- 11月
 - ・外国人留学生課外研修
 - ・カルチャーカフェ
- 12月
 - ・学長主催外国人留学生等交流懇談会
- 1月
 - ・留学生と地域との交流
 - ・ミニサービスディ
 - ・国際C級グルメ大会
- 2月
 - ・カルチャーカフェ

編集後記

2014年度4月より国際連携推進センターの発足に合わせ、これまで毎年3月に発行しておりました「くじら便り」を5月発行に変更することになりました。これにより、前年度の活動の報告と共に新年度の最新情報や予定等もお届けできるようになりました。皆様のご協力を得て「くじら便り」第3号も無事発行することができましたことを深く感謝申し上げます。なお、「くじら便り」第3号より国際連携推進センター発行となりましたことをこの場をお借りしてお知らせいたします。どうぞ今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。(林翠芳 記)

高知大学 国際連携推進センター

〒780-8520 高知市曙町2-5-1 TEL:088-844-8145 FAX:088-844-8718